

三重県の農産振興（お米、伊勢茶）と ユニバーサルデザインに関するアンケート

アンケートの概要

実施期間：令和5年1月25日（水曜日）から2月10日（金曜日）まで

対象者数：1384人

回答者数：876人

回答率：63%

年齢階層別

	10歳代 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代 以上
回答者数	54人	106人	209人	222人	215人	70人
構成比	6.2%	12.1%	23.9%	25.3%	24.5%	8.0%

地域別

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	445人	233人	100人	77人	21人
構成比	50.8%	26.6%	11.4%	8.8%	2.4%

※北勢地域 四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市
木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

※中南勢地域 津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

※伊勢志摩地域 伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、
大紀町、南伊勢町

※伊賀地域 名張市、伊賀市

※東紀州地域 尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

○「お米と伊勢茶に関するアンケート結果について」

(農産園芸課)

(Q1 お米の入手方法について)

あなたの世帯では、主にどのような方法でお米を購入(入手)していますか。あてはまるものを1つ選んでください。「自分の家で生産している」を選んだ方はQ3へお進みください。

選択肢	人数	割合
スーパーや生協、農協等の量販店で購入	363 人	41.4 %
米穀専門店で購入	16 人	1.8 %
インターネットや通販等で購入	37 人	4.0 %
農家(知り合いや親族が農家の場合を含む)から直接購入	194 人	22.1 %
知り合い(親族含む)からもらう(又は購入する)	172 人	19.6 %
自分の家で生産している	79 人	9.0 %
その他	15 人	1.7 %
合計	876 人	100.0 %

【分析】

お米の購入(入手)方法については、「スーパーや生協、農協等の店舗や通販などでお米を購入する」という方が全体の45.4(49.2)%と半数程度ある一方、「農家や親族、知り合いから直接購入する、もらう等」でお米を入手している方が41.7(40.6)%あり、「自分の家で生産している」の9.0(8.7)%を加えると、半数程度の方は、比較的身近なお米を食べていることがわかります。

※()は昨年度調査の数値

(Q2 お米の選び方について)

Q1で「自分の家で生産している」以外を選んだ方にお聞きします。あなたが、お米を購入(入手)される際に基準にしていることは何ですか。主なものを3つまで選んでください。

選択肢	人数	割合
価格	414 人	47.3 %
品種や銘柄	353 人	40.3 %
産地	267 人	30.5 %
生産者	75 人	8.6 %
安全性	169 人	19.3 %
味	205 人	23.4 %
鮮度（精米日）	99 人	11.3 %
無洗米	57 人	6.5 %
パッケージ	3 人	0.3 %
知り合い（親族含む）が作っている	173 人	19.7 %
特に基準はない	39 人	4.4 %
その他	15 人	1.7 %

【分析】

お米を入手される際の基準では、割合の高い順に、「価格」が 47.3(45.3)%、「品種や銘柄」が 40.3(40.6)%、「産地」が 30.5(33.3)%、「味」23.4(23.2)%、となり、昨年、一昨年度と全く同じ結果となりましたが、「産地」や「品種や銘柄」については減少傾向となり「価格」については3年連続で割合が高くなりました。

※（ ）は昨年度調査の数値

（Q3 好きなお米の味や食感について）

あなたは、どんな味や食感のお米（ごはん）が好きですか。あてはまると思うものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
もちもちしている	547 人	62.4 %
しゃっきりしている	111 人	12.7 %
パラパラしている	28 人	3.1 %
ねばりがある	166 人	18.9 %
さっぱりしている	53 人	6.1 %
かためのごはん	262 人	29.9 %
やわらかめのごはん	166 人	18.9 %
甘い	345 人	39.4 %
よいにおい（かおり）がする	299 人	34.1 %

白くてきれい	204 人	23.3 %
つやつやしている	435 人	49.7 %
米粒が大きい	108 人	12.3 %
冷めてもおいしい	396 人	45.2 %
その他	9 人	1.0 %
お米（ごはん）は好きではない	0 人	0.0%

年代による食味の好み（選択実人数）

年代	かためのごはん (A)	やわらかめのごはん (B)	A/B	(参考) 前年度 A/B
10代・20代	20 人	8 人	2.50	1.80
30代	47 人	9 人	5.22	2.06
40代	71 人	39 人	1.82	1.87
50代	53 人	50 人	1.06	1.21
60代	58 人	41 人	1.41	1.52
70代以上	12 人	19 人	0.63	0.64
全年代	261 人	166 人	1.57	1.40

【分析】

お米（ごはん）の「食感」の好みについては、割合の高い順に、「もちもちしている」62.4（60.1）%、「かためのごはん」29.9（30.2）%、「ねばりがある」18.9（21.0）%、「やわらかめのごはん」18.9（20.2）%と昨年、一昨年度と全く同じ順となりました。また、昨年と同様、「かためのごはん」と「やわらかめのごはん」のどちらが好みかという点について年代別に見ると、年代が若い方がかためのごはんを好む傾向にありました。「味」については、割合の高い順に、「冷めてもおいしい」45.2（46.2）%、「甘い」39.4（39.5）%、「よいにおい（かおり）がする」34.1（35.7）%とこちらも昨年と全く同じ傾向となりました。このほか、「つやつやしている」が49.7（49.1）%、「白くてきれい」が23.3（23.0）%など、「外観（見た目）」も「味」と同様に重要であり、みなさんに『選ばれるお米』に求められるポイントとして「もちもち」、「つやつや」、「冷めてもおいしい」、「甘み」、「よいにおい」、「白くてきれい」、「ねばり」といった点が重要となりそうです。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q4 お米の産地について)

あなたの世帯で購入（入手）するお米は三重県産米ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
常に三重県産米である	420 人	47.9 %
だいたい（7割～9割程度）三重県産米である	182 人	20.8 %
三重県産米と他県産米とがほぼ半々（4割～6割程度）である	101 人	11.5 %
たまに（1割～3割程度）三重県産米である	71 人	8.1 %
常に他県産米である	72 人	8.2 %
わからない	30 人	3.4 %
合計	784 人	100.0 %

【分析】

購入（入手）されるお米の産地としては、「常に三重県産」が47.9(49.4)%、「だいたい三重県産」が20.8(21.0)%、「三重県産と他産地がほぼ半々」が11.5(11.5)%、「たまに三重県産」が8.5(11.5)%、「常に他県産」が8.1(9.6)%という結果となりました。「常に三重県産」と「だいたい三重県産」の2つを合わせると、主として三重県産米を購入（入手）されている方の割合が全体の68.7(70.4)%を占めており、多くの方が三重県産米を食べている一方、「常に他県産」も例年一定割合はありますので、もっと三重県産のお米に興味を持っていただき、食べてもらえるようPRしていきたいと思えます。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q5 三重県産米の銘柄や品種について)

あなたは、三重県で作られているお米の銘柄や品種について、知っているものすべてを選んでください。

選択肢	人数	割合
三重のコシヒカリ	758 人	86.5 %
伊賀米コシヒカリ	548 人	62.6 %
結びの神（品種名：三重23号）	249 人	28.4 %

みえのゆめ	218 人	24.9 %
キヌヒカリ	248 人	28.3 %
その他	46 人	5.3 %
知っているものはない	31 人	3.5 %

【分析】

三重県で作られているお米の銘柄や品種については、「三重のコシヒカリ」は 86.5 (87.0) %と多くの方に知られており、次いで、「伊賀米コシヒカリ」62.6 (65.0) %となりました。一方、コシヒカリ以外となると、知られている割合の高いものでも3割足らずとまだまだ認知度が低い結果であるため、三重のお米をもっとPRする必要があると感じました。

(Q6 パックご飯について)

電子レンジで加熱することで手軽に食べられるパックご飯は保存性も高く注目されていますが、どれくらいの頻度で利用されますか。また、家庭で備蓄していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
週1回以上食べている	24 人	2.7 %
月1回以上食べている	75 人	8.6 %
数か月に1回食べている	122 人	13.9 %
年に1回以上食べている	98 人	11.2 %
数年に1回程度食べている	141 人	16.1 %
食べたことが無い	105 人	12.0 %
備蓄用として家庭で保存している	249 人	28.4 %
家には保存していない	296 人	33.8 %

【分析】

パックご飯について、「週1回以上食べている」、「月1回以上食べている」を合わせると 11.3(12.8)%と、定期的にご利用している方は、まだ多くないようです。「備蓄用として家庭で保存している」方も 28.4(26.9)%と多くありませんが、「食べたことが無い」方は(12.0)14.5%と回答しており、ほとんどの方が食べた経験はあるものの、頻繁には利用していないと思われます。

パックご飯の品質も向上していることから、さらなるPRにより消費拡大が見込めるかもしれません。

※ () は昨年度調査の数値

(Q7 無洗米について)

無洗米に対してどのようなイメージを持っていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択肢	人数	割合
手間がかからず便利	586 人	66.9 %
水が節約でき経済的	266 人	30.4 %
環境にやさしい(お米のとき汁が出ない)	194 人	22.1 %
水を入れるだけなので誰が炊飯しても同じ出来上がりになる	95 人	10.8 %
ぬか層のみ除いているので、うまみ成分が残っており、おいしい	23 人	2.6 %
お米をとき洗いしないので、ぬかの成分が残り、おいしくなさそう	97 人	11.1 %
お米をとき洗いしないため、不衛生な気がする	134 人	15.3 %
値段が高い、高そうである	276 人	31.5 %
その他	52 人	5.9 %

【分析】

無洗米のイメージについて「手間がかからず便利」66.9%「水が節約でき経済的」30.4%「環境にやさしい」22.1%など肯定的な意見が多い一方で、「値段が高い、高そうである」31.5%、「お米をとき洗いしないため、不衛生な気がする」15.3%などの意見も一定数ありました。自由記述欄には「防災用に良い」や「キャンプ用に使用している」など記載があり、無洗米のイメージ向上とともに、非常用としてもPRする余地があると感じました。

(Q8 伊勢茶の知名度について)

ここからは、伊勢茶についてお聞きします。

伊勢茶とは三重県産茶葉 100%の緑茶を指し、「水沢茶」、「鈴鹿茶」、「松阪茶」など各地域で生産・販売されている緑茶を含めて「伊勢茶」といいますが、このことを御存知でしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
知っていた(学校の学習で)	80 人	9.1 %

知っていた（インターネットの情報で）	81 人	9.2 %
知っていた（SNSの情報で）	34 人	3.9 %
知っていた（雑誌の情報で）	84 人	9.6 %
知っていた（その他）	276 人	31.5 %
名称は聞いたことがあるが、詳しくは知らない	328 人	37.4 %
知らない	114 人	13.0 %

【分析】

伊勢茶の定義について「知っていた」と回答された方のうち、雑誌及びインターネットの情報や学校の学習によって認知したという意見が一定数ありました。

また、「知らない」と回答された方は 13.0%となり、「伊勢茶」という言葉自体は県民の方に浸透していることがわかりました。

（Q9 緑茶の購入形態について）

あなたが緑茶を購入する場合、どのような形態をよく購入しますか。あてはまるものをすべて選んでください。「緑茶を飲まない」を選んだ方はQ12へお進みください。

選択肢	人数	割合
茶葉	495 人	56.5 %
ティーバッグ	376 人	42.9 %
粉茶	117 人	13.4 %
ペットボトル	466 人	53.2 %
その他	5 人	0.6 %
緑茶を飲まない	45 人	5.1 %

【分析】

お茶の購入形態について、「茶葉」と回答した割合が 56.5%（45.7%）と最も高く、次いで「ペットボトル」で 53.2（23.3%）、「ティーバッグ」で 42.9%（25.2%）の順でした。このことから、全国的にペットボトル飲料での緑茶消費が拡大している中であっても、約半数の方は、茶葉での飲用もされていることがわかりました。また、昨年度と比較して、ティーバッグで飲用される方の割合が増加しました。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q10 緑茶の購入場所・方法について)

あなたがよく購入する緑茶は、どこで購入されますか。あてはまるものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
茶専門店	172 人	19.6 %
スーパー	646 人	73.7 %
コンビニエンスストア	203 人	23.2 %
ドラッグストア	151 人	17.2 %
産地直売所	162 人	18.5 %
お土産屋(サービスエリア等含む)	61 人	7.0 %
インターネット	28 人	3.2 %
自動販売機	88 人	10.0 %

【分析】

お茶の購入場所・方法については、「スーパー」の割合が73.7%で最も高く、次いで「コンビニエンスストア」(23.2%)、「茶専門店」(19.6%)、「産地直売所」(18.5%)で、「インターネット」では(3.2%)でした。一方で、農林水産省による全国調査では「スーパー」(48.7%)、「茶専門店」(15.7%)、「インターネット」(15.1%)、「ドラッグストア」(10.9%)、「コンビニエンスストア」(5.2%)、「その他」(4.1%)の順番です。全国調査においては、インターネットによる購入が一定数の割合である一方、当県の調査では割合的に少ないことがわかりました。

(Q11 緑茶の購入産地について)

あなたがよく購入する緑茶は、どこの産地ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	人数	割合
三重県産(伊勢茶)	371 人	44.6 %
県外産	179 人	21.5 %
わからない	281 人	33.8 %
合計	831 人	100.0 %

【分析】

お茶の購入産地については、「三重県産（伊勢茶）」と回答された方の割合が44.6%で最も高く、次いで「わからない」(33.8%)、「県外産」(21.5%)でした。約7割の方が産地を意識して購入されています。

(Q12 緑茶の選び方について)

あなたがお茶（緑茶）を購入（入手）される際に、主に基準にしていることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

選択肢	人数	割合
価格	521 人	59.5 %
産地、ブランド（伊勢茶・静岡茶・知覧茶・八女茶・メーカーなど）	378 人	43.2 %
茶種（煎茶・深蒸し煎茶・かぶせ茶・玉露など）	384 人	43.8 %
品種（やぶきた・さえみどり・さやまかおりなど）	35 人	4.0 %
時期（新茶・一番茶・番茶など）	76 人	8.7 %
有機栽培茶、農薬不使用茶	54 人	6.2 %
デカフェ（カフェインの入っていない緑茶）	9 人	1.0 %
生産者	35 人	4.0 %
機能性	24 人	2.7 %
味	219 人	25.0 %
パッケージ	32 人	3.7 %
特に基準はない	98 人	11.2 %
その他	23 人	2.6 %

【分析】

お茶の選び方については、「価格」と回答した割合が59.5%と最も高く、次いで「茶種」(43.8%)、「産地・ブランド」(43.2%)、「味」(25.0%)の順でした。一方で、「デカフェ」(1.0%)、「機能性」(2.7%)、「パッケ

ージ」(3.7%)、「品種」(4.0%)については選択基準としては低い割合でした。農林水産省による全国調査の統計と類似しており、茶種を基準に選択される方が一定数いることがわかりました。

○「ユニバーサルデザインに関するアンケート結果について」

(子ども・福祉部地域福祉課)

※文章中のパーセント(%)表示は、小数点第2位を四捨五入して求めています。

13 「ヘルプマーク」の認知度について

Q13 「ヘルプマーク」は義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。あなたは、「ヘルプマーク」を見たことがあり、その意味をご存じですか。あてはまるものを1つ選んでください。

「ヘルプマーク」について、「見たことがあり、示す意味を知っている」「見たことはあるが、示す意味は知らない」を合わせて約66.1%の方が見たことがあると回答しています。

また、「見たことがあり、示す意味を知っている」「見たことはないが、示す意味は知っている」を合わせて約80.6%の方が示す意味は知っていると回答しています。

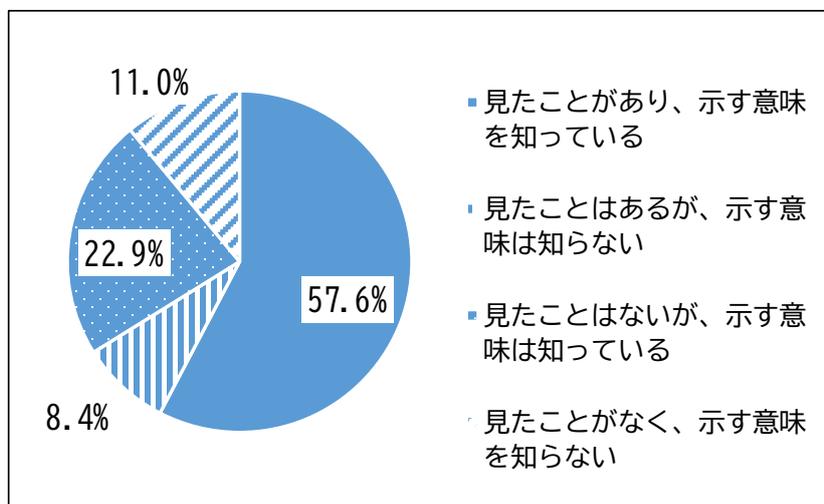


図 「ヘルプマーク」の認知度について

14 「ユニバーサルデザイン」の意味の認知度及び関心について

Q14 「ユニバーサルデザイン」とは、障がいの有無や年齢、性別等に関わらず、最初からできるだけ多くの人利用可能であるように施設、製品、制度等をデザインすることを言います。あなたは、「ユニバーサルデザイン」の意味を知っていましたか。また、関心はありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

ユニバーサルデザインの意味について約 69.5%の方が知っているという回答しています。ユニバーサルデザインに関心のある方は、約 74.0%となっています。

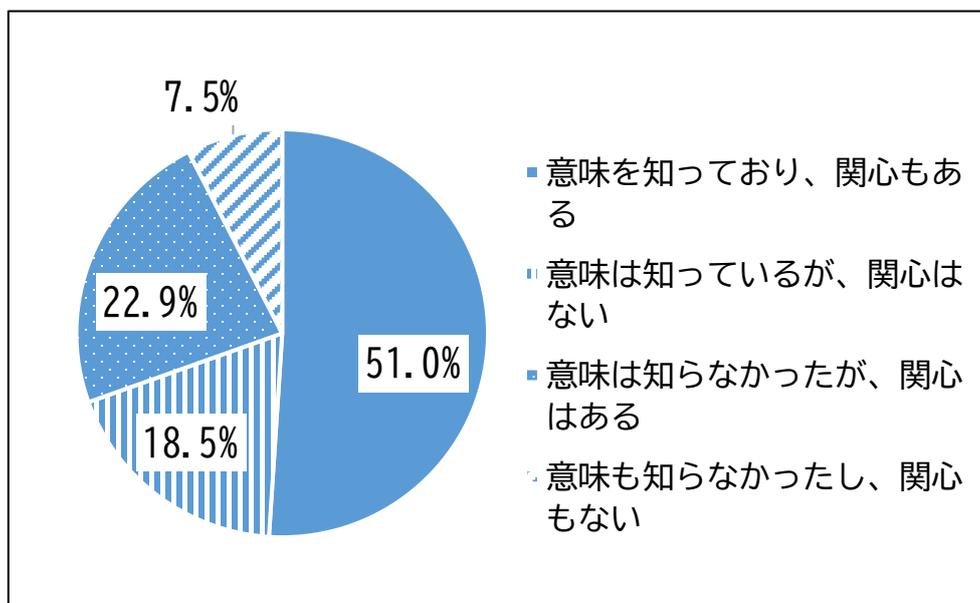


図 ユニバーサルデザインの意味の認知度及び関心

15 施設整備に関するユニバーサルデザインについて

Q15 あなたは、官公庁・病院・スーパー・駅舎・歩道など多くの人が利用する施設や電車、バスなどの乗り物について、段差が解消されたり、出入口が広くなるなど、だれもが使いやすくなってきていると感じますか。また、ユニバーサルデザインに配慮された施設を利用しようと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

多くの人が利用する施設やバスなどの乗り物についてだれもが使いやすくなってきていると感じるかという問いに、「使いやすくなってきていると感じる」と回答した方は、合わせて約71.6%となっています。

また、ユニバーサルデザインに配慮された施設を利用しようと思うかという問いに「配慮された施設を使いたい」と回答した方は、合わせて約47.7%となっています。

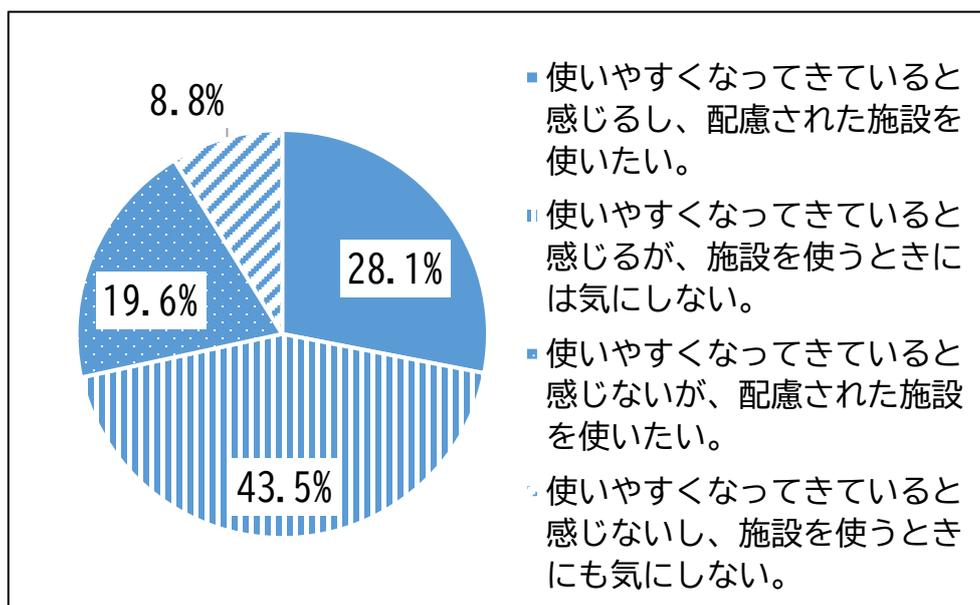


図 施設等のユニバーサルデザインについて

Q16 製品及び情報提供、サービスの提供に関するユニバーサルデザインについて

Q16 あなたは、日常生活で使う製品、社会生活に必要な広報紙やチラシなどの情報提供や、国、県、市町等の行政サービスや商店、商業施設、宿泊施設等の民間企業等の顧客サービスが、障がい者、高齢者、妊産婦、外国人等さまざまな人の立場に立って提供されていると感じますか。あてはまるものをすべて選んでください。

※この設問における「サービス」とは、案内表示やサービス提供時における説明のわかりやすさ、手続きの簡素化、さまざま利用者の要望（ニーズ）に応じたサービスをイメージしてください

個別の回答結果は下記表のとおりとなりました。

製品または情報提供がさまざまな人の立場に立って配慮されてきているかという問いに、「配慮されてきていると感じる」と回答した方は、全体の約57.0%となりました。

行政または民間企業等のサービスがさまざまな人の立場に立って提供されてきているかという問いに、「配慮されてきていると感じる」と回答した方は、全体の約42.0%となりました。

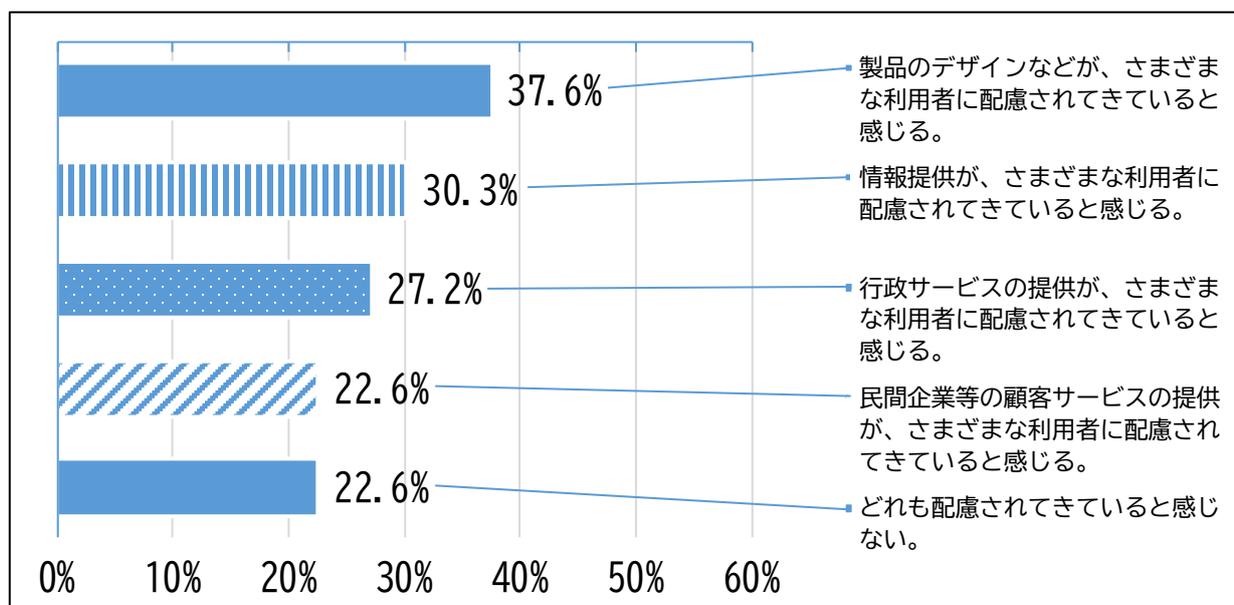


図 製品、情報提供及びサービスの提供に関するユニバーサルデザインについて